

編集後記：私が編集を担当している原稿の多くはシンポジウム報告です。今月号にもシンポジウム報告が掲載されていますが、このカテゴリーの原稿の大きな特徴は、最新の研究動向を分かりやすく、かつ丁寧に紹介してくれていることです。最近の気象学は幅広く細分化されているので、分野の異なる門外漢にとっては最新の情報に手軽にキャッチアップする機会を与えてくれる非常にありがたい存在と言える、と考えております。そのような学術的な情報に加えて、学会やシンポジウムの一般的な“楽しみ方”を教えてくれる報告も多々見受けられます。分野が違うと、これほどまで

にシンポジウムの形態や議論の進め方の流儀が異なるものか、と驚かされることが度々です。

さて、今月号の「天気」には、2016年度春季大会のプログラムが掲載されています。前回の京都での2015年度秋季大会が（個人的には）昨日のことに思われ、如何ともし難い時の流れの速さに改めて驚いたところですが、多彩な「天気」シンポジウム原稿から学んだことを基に自分なりに構築した“楽しみ方”を来る春季大会において試すための作戦をプログラム片手に練り始めたいと思ったところです。

(庭野匡思)